

# 1. 目の不自由な人へのお手伝い

目の不自由な人、というと全く見えない「全盲」の人を想像しがちです。しかし、「弱視」といって、光を感じたり、物の輪郭が分かったり、誘導用ブロックの黄色いラインを目印にひとりで外出できる人もいます。その人の手伝ってほしいことや、状況に応じて必要なお手伝いをするようにしましょう。

## ～お手伝いの3つのポイント～

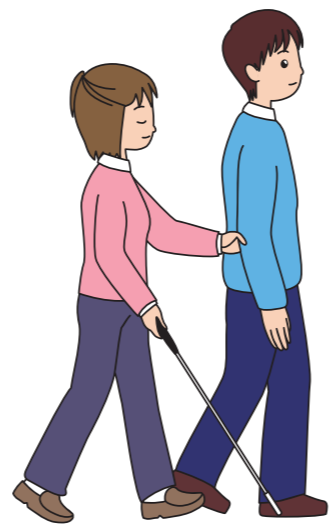
1. まずは声をかけ、手助けが必要かどうか確かめましょう。

とつぜんからだに触れたり、白い杖をつかんでひっぱったりすると、びっくりさせて思わぬ事故につながる可能性があります。



2. 誘導するときはその人の半歩前に立ち、あなたのひじや肩をつかんでもらいましょう。

歩きながら「速さはこのくらいでいいですか?」と確かめたり、「いま信号待ちです」「階段を3段上がります」などと、まわりの様子を伝えましょう。



3. 具体的でわかりやすく説明するようにしましょう。「これ」「それ」「あっち」などの言葉を使わずに、例えば「右に曲がって5メートルほど進んだところ」にあります。よかったらご案内しましょうか? というように具体的な言い方を心がけましょう。

# 2. 耳の不自由な人へのお手伝い

耳の不自由な人は、電車やバスの走行音やクラクションが聞こえず、すぐそばまで近づいていることに気づかないことがあります。また、事故などがあって電車が止まってしまうと、アナウンスがあっても様子がわからず、不安になってしまいます。

## ～お手伝いのポイント～

声をかけても反応がないときは、その人の視界に入るようにしてゆっくり、はっきりと話しかけましょう。メモ帳などを使えば、手話ができなくても、耳の不自由な人とコミュニケーションをとれます。



※「聞こえない」の手話

